

第7回「東京国際空港再拡張事業に係る環境影響評価技術検討委員会」 議事概要(案)

【開催日時】 平成17年 8月 8日(月)15:00~17:00

【開催場所】 バーク芝浦ビル 3F 大会議室

【資料】

- 資料-1 第6回「東京国際空港再拡張事業に係る環境影響評価技術検討委員会」議事概要(案)
 - 資料-2 東京国際空港再拡張事業に係る環境影響評価準備書(案)
 - 資料-3 東京国際空港再拡張事業に係る環境影響評価準備書(案)抜粋版
 - 資料-4 今後のスケジュール(案)
-

1. 開会挨拶

2. 議 事

- ・各資料に基づき説明を行った。
- ・各委員から以下の発言があった。

3-2 準備書案について

委員：大気質について、抽象的な表現を明確にし、用語を統一すること。また、予測モデルの概要が示されていない箇所は記載すること。LTOサイクルや離陸上昇角度などの数値の根拠を記載していないので、整理すること。本来必要であるグラフ、例えば環境保全目標を設定する際に必要なグラフ等が抜けているので、追加して欲しい。

委員長：表現に関しては修正し、整合性がとれていない箇所は整合をとること。

委員：流況について、塩分と水温のモデルの妥当性に関する記述では、3ヶ月計算によって、初期値が大きくずれないことを確認している事がわかる表現にした方がよい。

事務局：水温と塩分のモデルの妥当性および地形変化については、指摘を踏まえて記述を再検討する。

委員：流動および水質の計算条件については、河口域は時間的にも空間的にも非常に変動が激しい場であり、平均的な場としての検討のみでは不十分である。最終的な評価では、使用したモデル及び係数を前提にして表現する必要があるのではないか。

事務局：流況、水質の予測評価については、予測モデルの考え方、前提を記載した上で行う。

第7回「東京国際空港再拡張事業に係る環境影響評価技術検討委員会」 議事概要(案)

委員：地形及び地質について、地形変化モデルにおける多摩川河口部左岸の侵食の再現性の評価の記述は検討した方がよい。

事務局：記述について指導を受けたい。

委員：地形及び地質について、計算条件として波を考慮していない旨、記載があったが、流れについても考慮している場合は、明記する必要があるのではないかと。

事務局：流れの影響については検討を行った。

委員：遮光域の付着生物について、生物付着量及び脱落量を決める環境の支配的な要素を記載した上で、その支配要素に対して、計算データとして用いた大井埠頭と多摩川河口の環境を比較すること。

事務局：生物の付着量及び脱落量については、支配的要素について記載を補う。脱落については今後調査研究を進めて評価の把握に努める旨、記載する。

委員：遮光域の付着生物について、夏場の大井埠頭のデータを用いて5メートル以深は橋脚にほとんど生物が付着しないとするのは、過小評価の可能性があると。解析した条件設定を明確にするために、DOのデータを記載すること。

事務局：生物の脱落量を過小評価している可能性について、記述を再検討する。

委員：遮光域の付着生物について、脱落が底質及び地形変化に与える影響が考慮されていない。DO変化予測では橋脚の影響について議論し、他の予測項目では議論しない事は、全体的な整合性を欠くのではないかと。

事務局：底質及び地形変化への影響については予測が難しいため、記述を行うか、あるいは環境監視の項目として検討を行う。

委員：鳥類については、現況調査結果に基づき、評価における貴重種のうち考慮すべき種について限定あるいは特定し、具体的に示すべきではないかと。

事務局：鳥類について、評価部分の記載を再検討する。

委員：航空機と鳥の衝突について、基本的な考え方の設定をもう少し具体的に書く必要がある。

事務局：現況の衝突の実績を踏まえ、将来着陸回数が1.4倍になった際の衝突回数を予測した。

委員：鳥類について、チョウゲンボウとトビについて別項目を立てて記載している根拠は何か。

第7回「東京国際空港再拡張事業に係る環境影響評価技術検討委員会」 議事概要(案)

事務局：衝突の予測を行った種においては、チョウゲンボウとトビ以外の種は、当該事業実施区域において多数の個体数が確認されていることから、今回は、チョウゲンボウ及びトビについて別項目をたてて評価した。

委員：生物について、実際に事業によって失われる空間で、どの種が何匹、または、どれぐらいのボリュームが失われるのか、計算上求めて、評価した上で、最終的な全体評価をして欲しい。

事務局：検討する。

委員：生態系について、評価の中で注目種の選定根拠が記載されていないので明確にする必要がある。また、希少種についても記載の根拠を明記すること。

水生生物の生活史について、既存資料や現況調査結果をもとに的確に表現すること。

事務局：記述について指導を受けたい。既存の調査に加え、今後新しい項目も含めて調査を実施し、その結果を踏まえて検討する。

委員：生態系について、「生態系に関する知見は十分ではないので、事後調査を継続的に行って、知見の集積に務め、予測内の対応等、影響が出た場合には対応を講ずる」というような表現を加えた方が、今後も調査を行い、生態系に関しては知見を十分に集積するという方針が明確になるのではないか。

委員長：事後調査に関する事項は第8編に記載するという方針であったが、重要なところはそれぞれに記載して欲しい。

委員：航空機騒音について、夜間の騒音の評価はどこに記載されているか。

事務局：WECPNLでは、夜間の飛行経路及びその飛行経路から発生する音を含めて、一日の中の重みづけを踏まえて評価している。夜間の騒音を含めたコンター図を示している。

委員：『東京湾の環境改善の寄与等』での追加記載内容について、多摩川河口域に建設することに注目して修正、加筆を行えないか。また、単に「有識者等の意見を聞きながら」とせず、具体的な調査の体制などについて記載して欲しい。

委員：河口生態系の複雑さについて、今後は特に暗環境と河口生態系への取り組みが不可欠であるということが明確にわかるような表現にして欲しい。

委員：『東京湾の環境改善の寄与等』とあるが、もう1つ滑走路を新設することが何故東京湾

第7回「東京国際空港再拡張事業に係る環境影響評価技術検討委員会」 議事概要(案)

の環境改善への寄与等ということになるのか。

事務局：第7編は第1章環境保全措置、第2章東京湾の環境改善への寄与等という構成として
いる。第7編において、過去の事例では環境保全配慮・対策について記載しているが、
今回は未解明な部分があるため、より積極的に調査・研究し、代償措置をとることを
示すために、第2章として、調査に基づき、必要な対策を実施する旨、記載した。第
8編の、「調査の継続や実施等で有識者等の意見を『聞きながら』」という記述につい
ては、単に有識者に意見を聞くのではなく、より積極的に参加していただき、調査・
研究を進めたい旨、記載する。

委員：「代償措置を含む環境改善のための方策について積極的に検討」とは、具体的には何か。

事務局：代償措置として、滑走路を新設することによって減った生息範囲をどこかで補うよう
な対策の実施を考えている。具体的な内容は、今後十分検討した上で明らかにする。

委員：代償措置は、この空港再拡張事業として実施可能なのか。

事務局：近傍の対策とは別に、再拡張事業として実施するか明確ではないが、国土交通省とし
て実施できる代償措置を東京湾の中でとりたい。

委員：期待する。意気込みがあるということ、明確に記述したほうが良いのではないか。

委員：国土交通省の姿勢として、評価書を出す時点では、何が実施できるのか、具体的な事
例、方向性を見せることで、今回のアセスメントの社会的合意を得るということにな
るのではないか。

事務局：今後、評価書を作成していく段階で対応する。

委員：8月5日の朝日新聞に、海洋学会が国土交通省及び環境省に対して意見書を提出した
という記事があった。現段階で対応について何かあるか。

事務局：日本海洋学会の海洋環境問題委員会から、「東京国際空港再拡張事業の環境影響評価の
あり方に関する見解」として7月23日付けで文書送付を受けている。その主旨は、羽
田再拡張事業の計画が急ピッチで進められているが、羽田周辺海域は、水産資源と生
物多様性にとって重要な海域であり、事業の影響が強く懸念される。十分な環境影響
評価の実施を求める。ということで、具体的な調査課題の提示があった。流況・水質・
地形の変化に関することについて、生物生態系に関することについて、データの取得
方法などの評価手法について指摘があった。本日の資料は、海洋学会の意見も念頭に

第7回「東京国際空港再拡張事業に係る環境影響評価技術検討委員会」 議事概要(案)

置きながら作成した。

委員：本日の資料の中に海洋学会からの意見もとり入れた部分もあるという事であったが、具体的にはどこか。

事務局：例えば第7編・第8編で、シミュレーション結果の不確実性があり、今後調査を実施する旨を記載している。

委員長：準備書については、委員の意見・指導のもと、修正を行い内容を固めるが、最終的には私がまとめることでよいか。ありがとうございます。

3 - 3 . 今後のスケジュールについて

今後のスケジュールについて、事務局より説明があった。